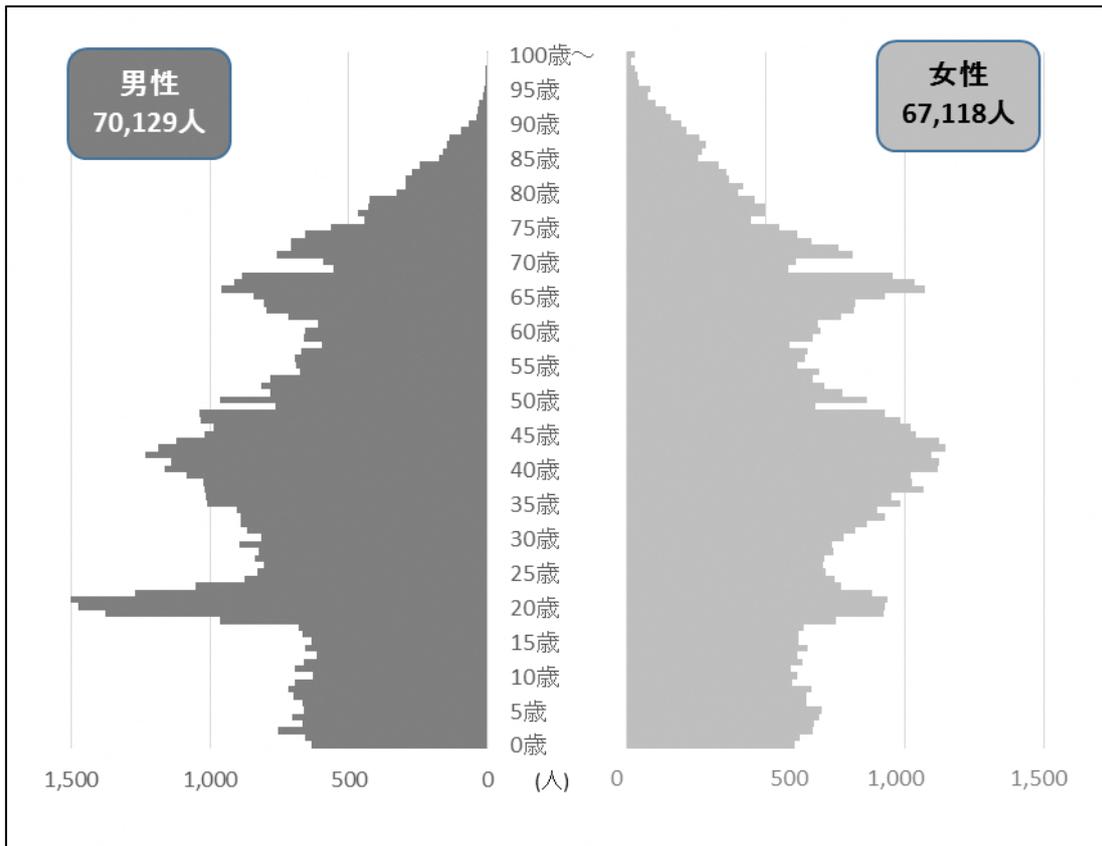


第2章 草津市の現状分析

1 市全体

2015（平成27）年国勢調査結果を利用して、草津市の高齢人口の現状を概観する。²

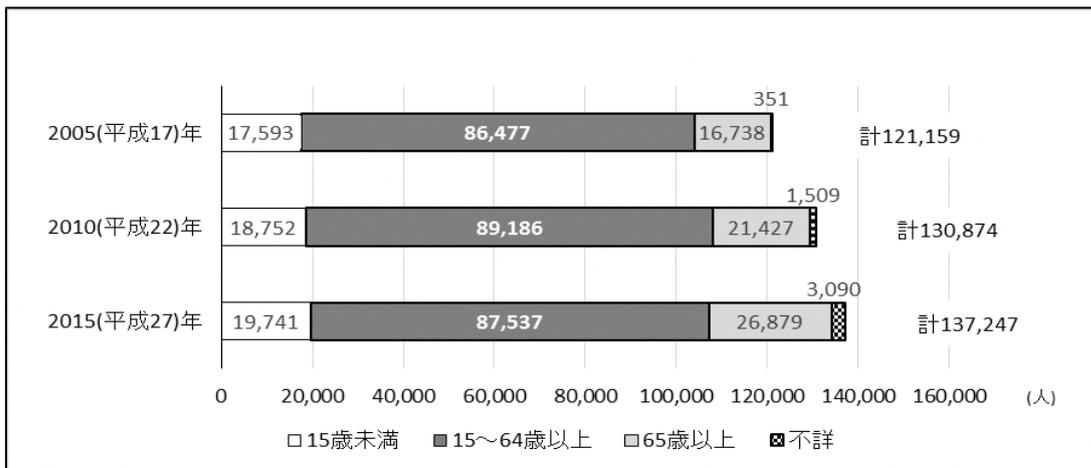


出所：国勢調査（2015）

図2-1 男女・各歳別人口（人口ピラミッド）2015（平成27）年

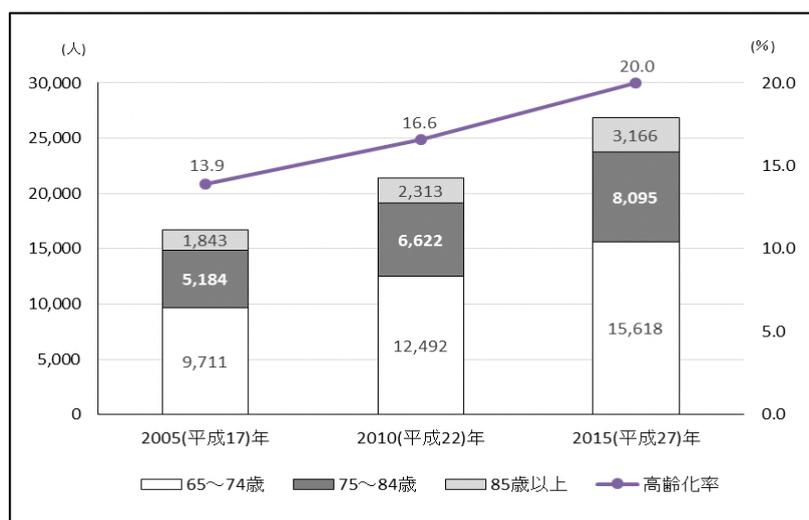
2015（平成27）年の草津市の人口を年齢別にみると、1歳階級別では21歳が2,439人で最も多く、5歳階級別では40～44歳が多い。男女別では、男性の21歳が最も多く、18～22歳は男性が大きく女性を上回っており、これは市内にある大学の学生によるものと考えられる。77歳以上は女性の方が多い。

² なお、これ以降に示す「割合」は、分母の値から年齢不詳を除いて算出している。



出所：国勢調査（2015）

図 2-2 年齢 3 区分別人口の推移



出所：国勢調査（2015）

図 2-3 高齢人口の推移

図 2-2 のとおり、過去 3 回の国勢調査の年齢 3 区分別推移をみると、15 歳未満、65 歳以上は増加している反面、15～64 歳が 2015（平成 27）年に減少している。15 歳未満の人口がなお緩やかに増加しており、全国的にみても特異な傾向を示しているものの、他方で、高齢人口の増加率は高く、草津市においても高齢化が進展している。

次に図 2-3 のとおり、高齢人口の推移をみると、65～74、75～84、85 歳以上すべて増加している。高齢化率も上昇している。

2 小学校区・地区による分類

(1) 区分

全数調査である国勢調査の小地域集計結果を利用して、小学校区・地区ごとによる分類を行った。³

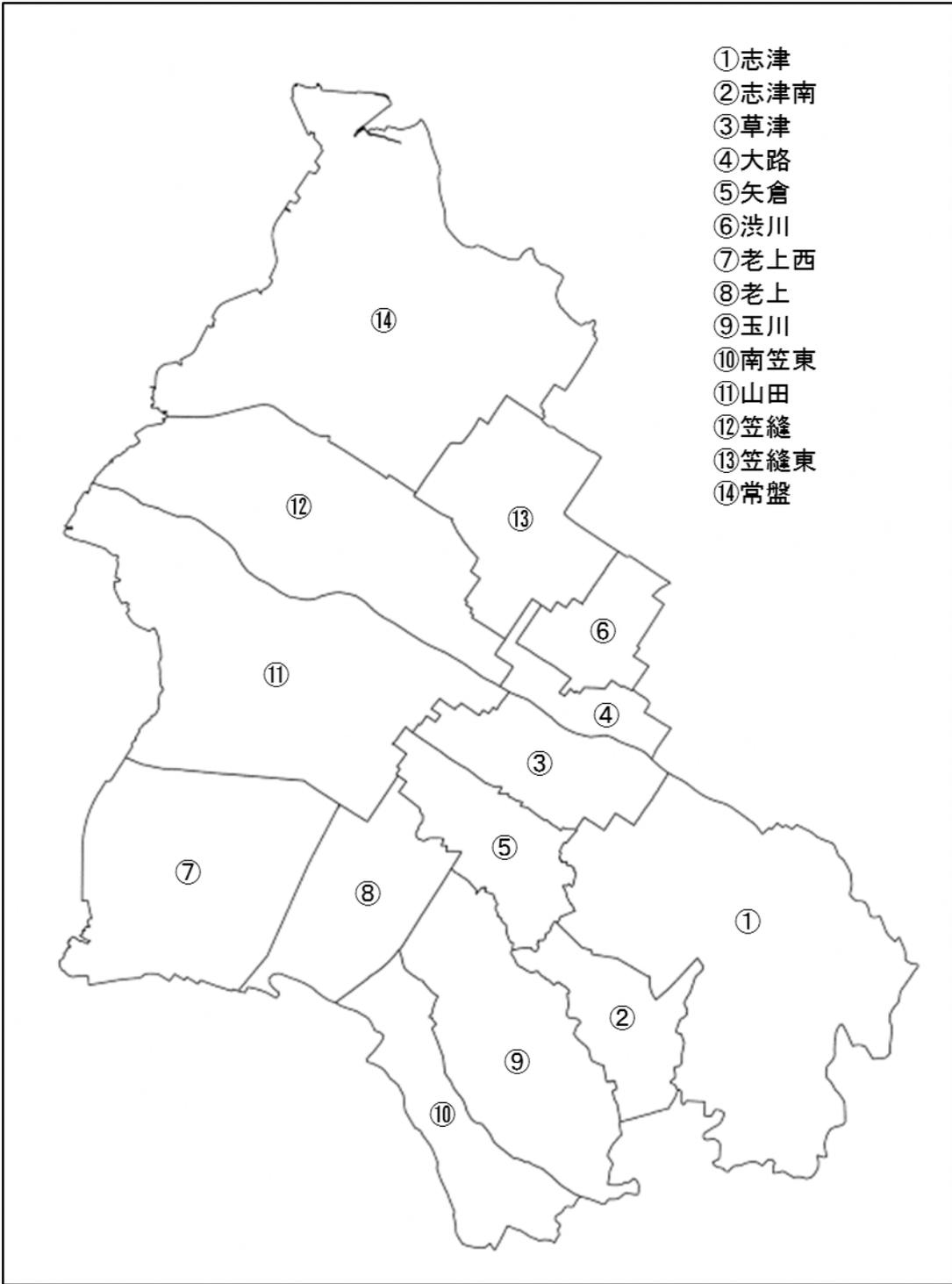
表 2-1 本調査における小学校区・地区分類

	町丁名		町丁名		町丁名		町丁名
志津	馬場町	草津	西草津2丁目	玉川	桜ヶ丘5丁目	笠縫	上笠4丁目
	山寺町		草津町		野路東1丁目		上笠5丁目
	岡本町	大路	大路1丁目		野路東2丁目		野村2丁目
	青地町		大路2丁目		野路東3丁目		野村3丁目
	追分1丁目		大路3丁目		野路東4丁目		野村4丁目
	追分2丁目	矢倉	西大路町		野路東5丁目	下笠町	
	追分3丁目		野村1丁目		野路東6丁目、7丁目	野村5丁目	
	追分5丁目		追分4丁目		野路1丁目	野村6丁目	
	追分6丁目		矢倉1丁目		野路2丁目	野村7丁目	
	追分7丁目		矢倉2丁目		野路3丁目	野村8丁目	
追分8丁目	東矢倉1丁目		野路4丁目	平井町			
追分南1丁目	東矢倉2丁目		野路5丁目	平井1丁目			
追分南2丁目	東矢倉3丁目		野路6丁目	平井2丁目			
追分南3丁目、4丁目	東矢倉4丁目	野路7丁目	平井3丁目				
追分南5丁目	西矢倉	西矢倉1丁目	野路8丁目	笠縫東	平井4丁目		
追分南6丁目		西矢倉2丁目	野路9丁目		平井5丁目		
追分南7丁目	西矢倉3丁目	南笠東	南笠東1丁目		平井6丁目		
追分南8丁目	渋川		渋川1丁目	南笠東2丁目	川原町		
追分南9丁目			渋川2丁目	南笠東3丁目	川原1丁目		
若草1丁目			西渋川1丁目	南笠東4丁目	川原2丁目		
若草2丁目			西渋川2丁目	笠山1丁目	川原3丁目		
若草3丁目	若竹町		南笠東	笠山2丁目	川原4丁目		
若草4丁目				新浜町	笠山3丁目	駒井沢町	
若草5丁目	老上			矢橋町	笠山4丁目	新堂町	
若草6丁目	西			橋岡町	笠山5丁目	集町	
若草7丁目	老上			野路町	笠山6丁目	片岡町	
若草8丁目		南草津1丁目		笠山7丁目	下寺町		
東草津1丁目		南草津2丁目		笠山8丁目	下物町		
東草津2丁目		南草津3丁目		山田	北山田町	芦浦町	
東草津3丁目		南草津4丁目			山田町	長束町	
東草津4丁目		南草津5丁目		南山田町	上寺町		
草津1丁目		南笠町	木川町	穴村町			
草津2丁目		玉川	桜ヶ丘1丁目	御倉町	北大萱町		
草津3丁目	桜ヶ丘2丁目		笠縫	上笠町、上笠1丁目	志那町		
草津4丁目	桜ヶ丘3丁目			上笠2丁目	志那中町		
西草津1丁目	桜ヶ丘4丁目			上笠3丁目			

(表中、複数の町丁を1行に表示している箇所は、合算処理がされている)

出所：草津未来研究所作成

³ なお、国勢調査の小地域データは町丁を単位とするが、本調査では町丁を分割することのないよう区域を表 2-1 に示すとおりに設定したため、実際の小学校区・地区とは異なっているところがある。

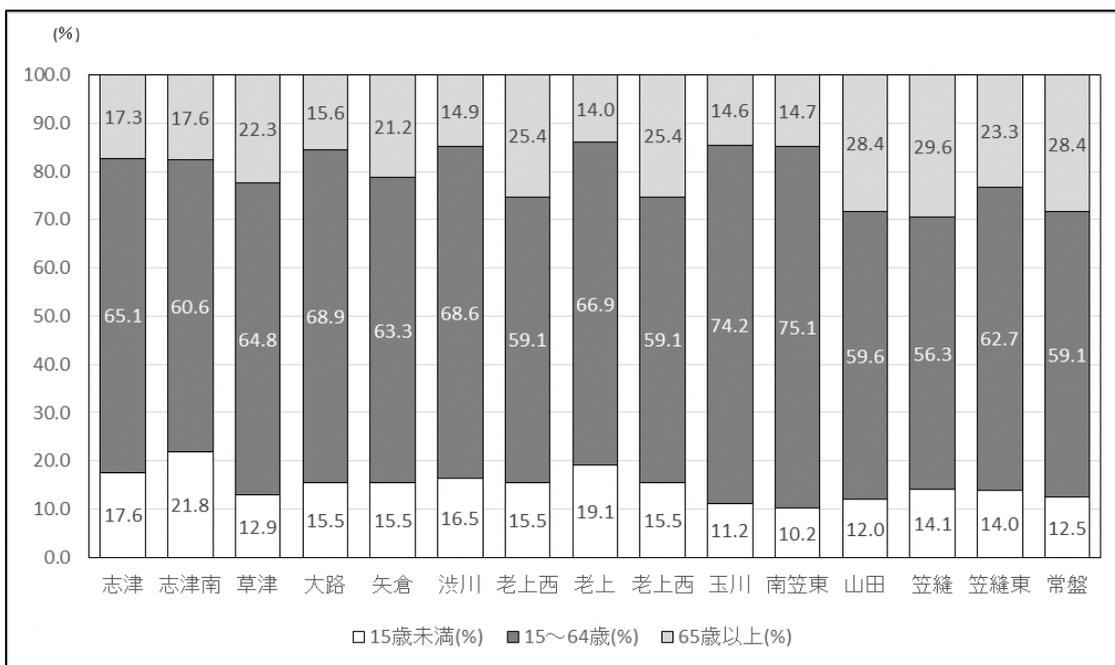


出所：草津未来研究所作成

图 2-4 小学校区・地区概要地図

(2) 年齢3区分別人口

年齢3区分別人口割合をみると、図2-5のとおり、15歳未満の割合が最も高いのは志津南学区、低いのは南笠東学区となっている。15～64歳の割合が最も高いのは南笠東学区、低いのは笠縫学区となっている。高齢化率は高い順に笠縫学区（29.6%）、山田学区・常盤学区（28.4%）、低いのは老上学区（14.0%）となっている。

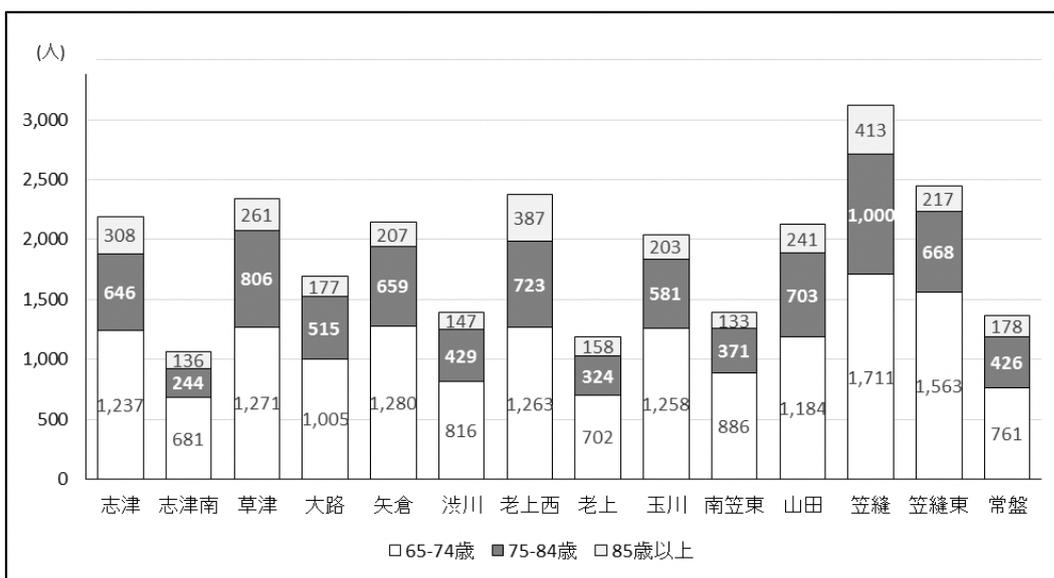


出所：国勢調査（2015）

図2-5 小学校区・地区別にみた年齢3区分別人口割合 2015（平成27）年

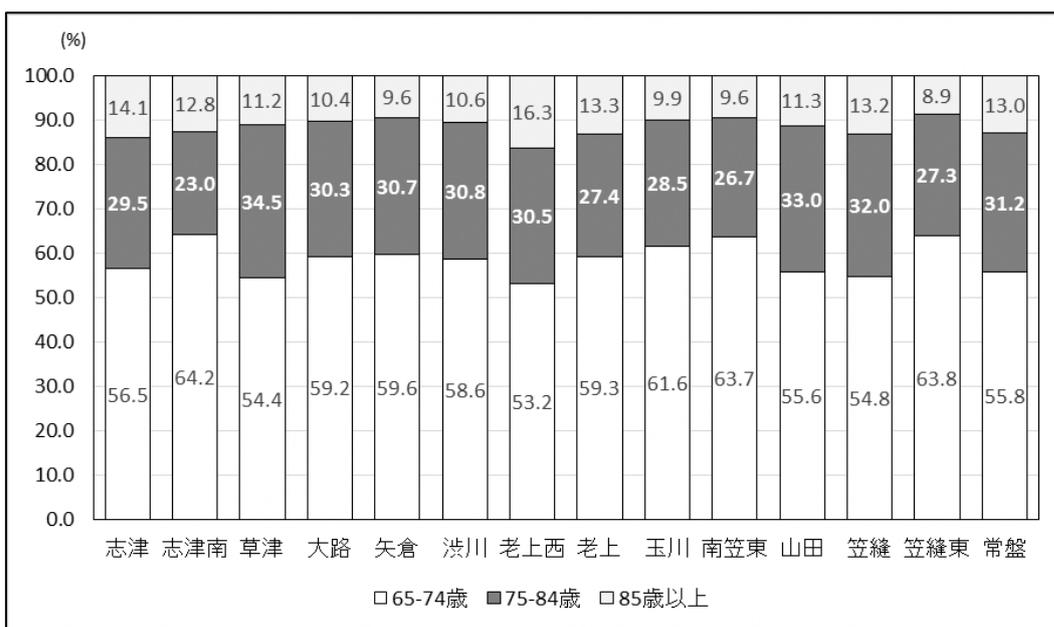
(3) 高齢人口

高齢人口の実数でみると、図2-6のとおり、高齢人口が多い順に笠縫学区（3,124人）、笠縫東学区（2,448人）、老上西学区（2,373人）となっている。高齢人口に占める割合についてみると、図2-7のとおり、85歳以上が高いのは老上西学区（16.3%）、74～85歳が高いのは草津学区（34.5%）、65～74歳が高いのは志津南学区（64.2%）となっている。



出所：国勢調査（2015）

図 2-6 高齢人口 2015（平成 27）年



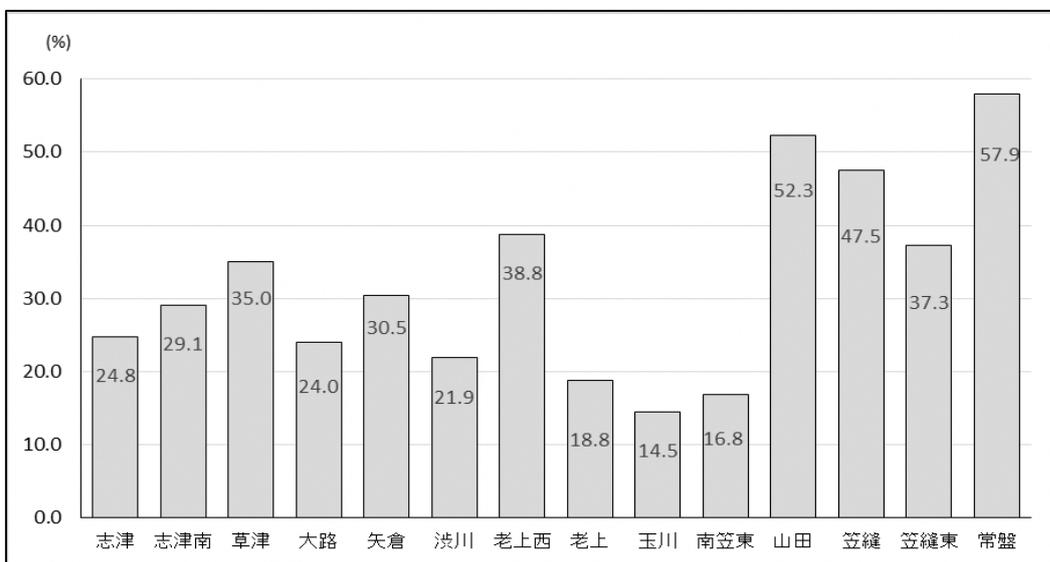
出所：国勢調査（2015）

図 2-7 高齢人口に占める割合 2015（平成 27）年

(4) 一般世帯に占める高齢者のいる世帯および高齢者のみ世帯

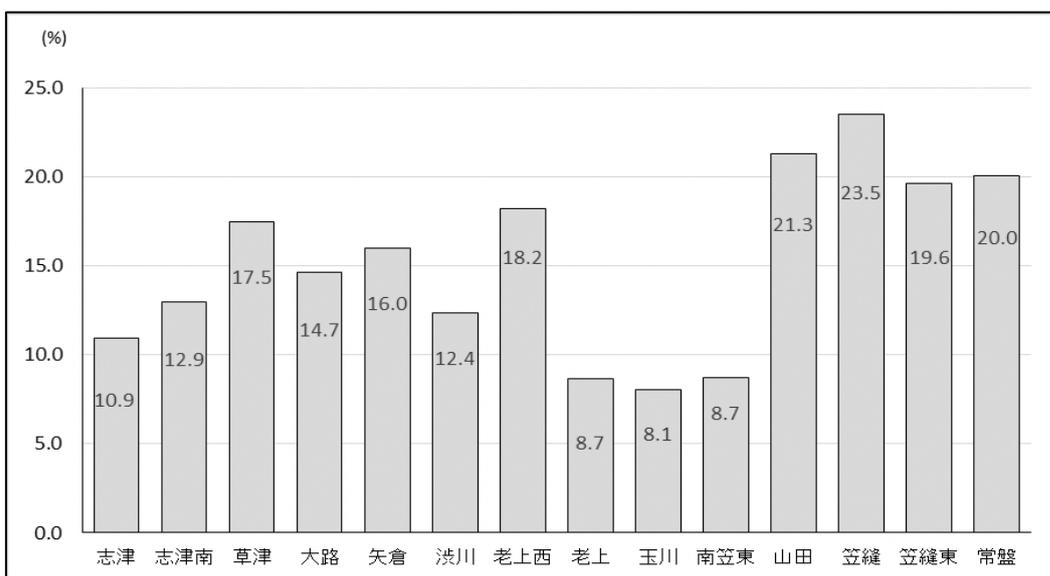
一般世帯に占める高齢者のいる世帯割合についてみると、図 2-8 のとおり、割合が高い順に常盤学区（57.9%）、山田学区（52.3%）、笠縫学区（47.5%）となっている。

次に高齢者のみ世帯の割合についてみると、図 2-9 のとおり、割合が高い順に笠縫学区 (23.5%)、山田学区 (21.3%)、常盤学区 (20.0%) となっている。



出所：国勢調査 (2015)

図 2-8 一般世帯に占める高齢者のいる世帯の割合 2015 (平成 27) 年



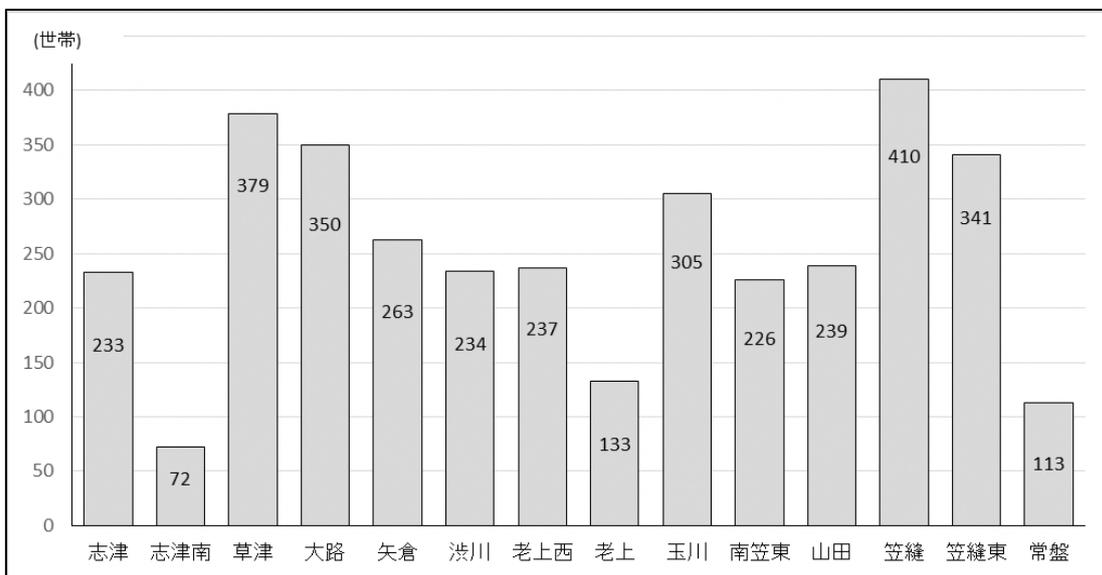
出所：国勢調査 (2015)

図 2-9 一般世帯に占める高齢者のみ世帯の割合 2015 (平成 27) 年

(5) 単独世帯および3世代世帯

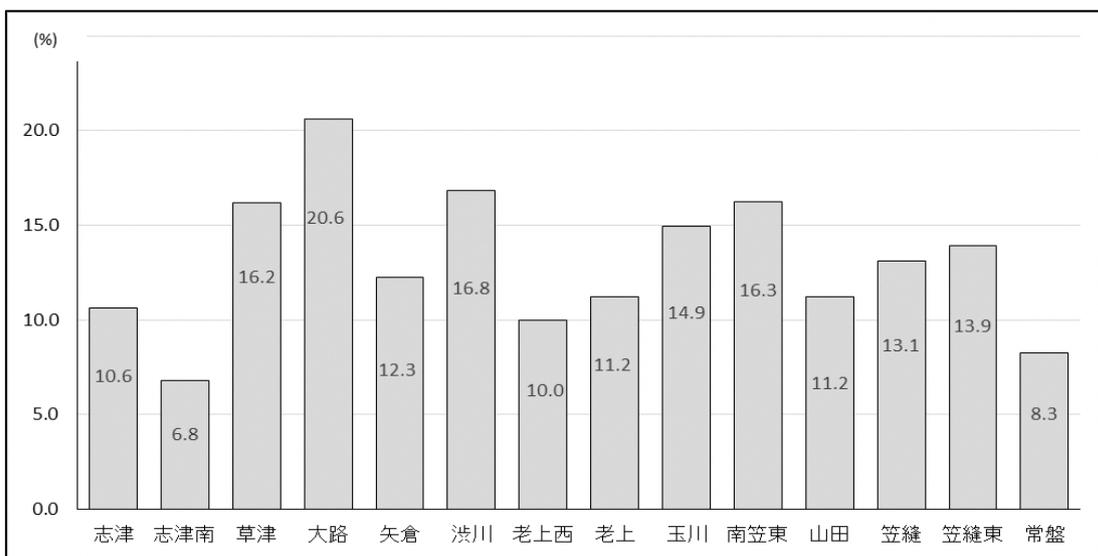
65歳以上の単独世帯数、つまり一人暮らし高齢者数についてみると、図2-10のとおり、一人暮らし高齢者数が多い順に笠縫学区(410人)、草津学区(379人)、大ROUTE区(350人)となっている。高齢人口に占める単独世帯の割合についてみると、図2-11のとおり、単独世帯割合の高い順に大ROUTE区(20.6%)、渋川学区(16.8%)、南笠東学区(16.3%)となっており、草津駅周辺の中心市街地で高齢人口に占める単独世帯の割合が高い。

次に高齢者のいる世帯に占める3世代世帯の割合についてみると、図2-12のとおり、3世代世帯割合が高い順に常盤学区(30.2%)、山田学区(24.6%)、志津学区(19.4%)となっている。



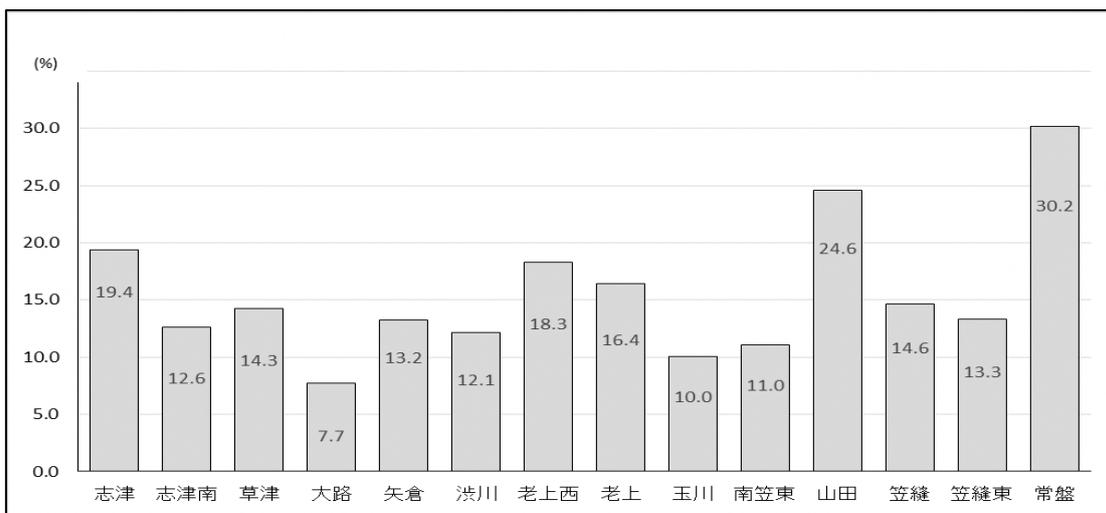
出所：国勢調査(2015)

図2-10 65歳以上の単独世帯数 2015(平成27)年



出所：国勢調査（2015）

図 2-11 高齢人口に占める単独世帯の割合 2015（平成 27）年

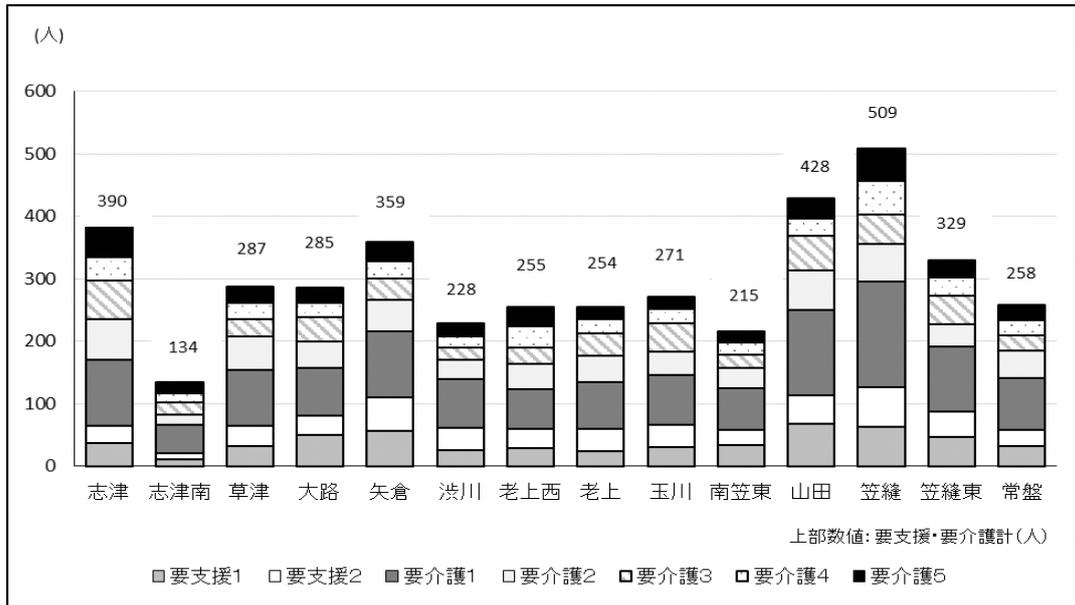


出所：国勢調査（2015）

図 2-12 高齢者のいる世帯に占める 3 世代世帯の割合 2015（平成 27）年

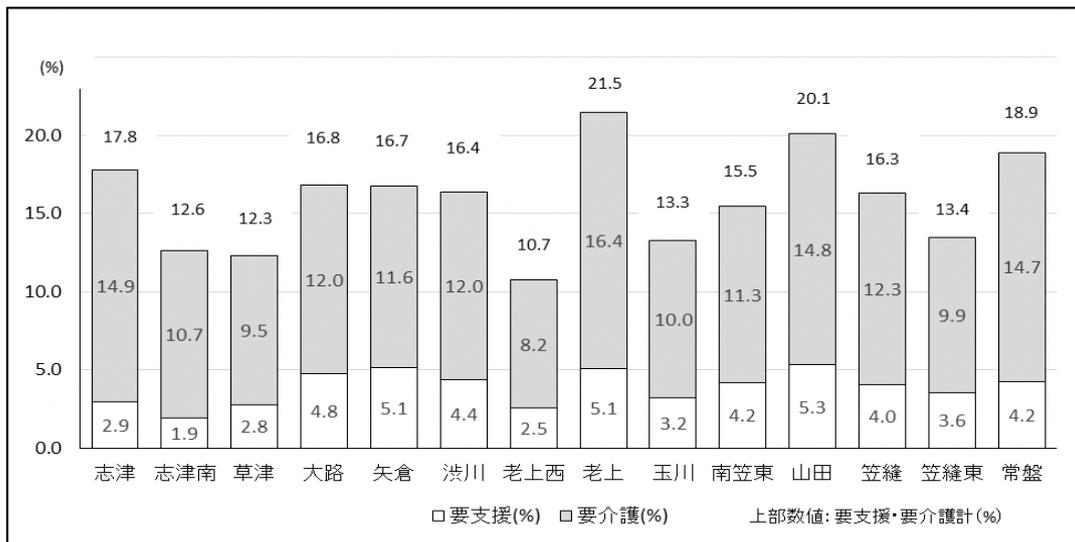
(6) 要介護（支援）認定者

要介護（支援）認定者数についてみると、図 2-13 のとおり、多い順に笠縫学区（509 人）、山田学区（428 人）、志津学区（390 人）となっている。高齢人口に占める要介護（支援）認定率についてみると、図 2-14 とおり、認定率の高い順に老上学区（21.5%）、山田学区（20.1%）、常盤学区（18.9%）となっている。



出所：介護保険課資料

図 2-13 要介護（支援）認定者数 2015（平成 27 年）⁴



出所：出所：国勢調査（2015）および介護保険課資料

図 2-14 高齢人口に占める要介護（支援）認定率 2015（平成 27 年）

⁴ 要介護（支援）認定者数について

- 抽出基準日（2015（平成 27）年 10 月 1 日）時点で、草津市に住民登録があり、かつ草津市が保険者で要介護（支援）認定のある対象者。
- 抽出基準日時点での認定者に最新の住所データを突合させて集計しているため、基準日以降に市内転居および基準日以降に住所地特例対象者となったものは基準日の住所地での集計ができていない。

(7) まとめ

以上のことから、前項で示したとおり、市全体の 2015(平成 27)年の高齢化率は 20.0%と全国平均 26.6%を下回っているが、小学校区・地区別にみると笠縫学区(29.6%)、山田学区(28.4%)、常盤学区(28.4%)の高齢化率は全国平均を上回っている。この 3 学区は高齢者のいる世帯の割合、高齢者のみの世帯の割合も高くなっている。笠縫学区は高齢人口も、一人暮らし高齢者の人数も最も多い。一方で、一人暮らし高齢者の割合は 3 学区とも高いわけではない。このことは 3 世代世帯割合が他の学区より高いことや、琵琶湖湖岸に位置し、農業従事者が他より多いこと⁵などから、地域性がある可能性が示唆される。一人暮らし高齢者の割合は、大路区(20.6%)、渋川学区(16.8%)、草津学区(16.2%)と草津駅周辺の中心市街地地域が高くなっている。

3 家族構成による分類

前項で高齢化率が高い小学校区・地区と一人暮らしの割合が高いことは必ずしも一致しないことがわかった。次に一人暮らしの高齢者の特徴を見出すため、「草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(平成 28 年度)」⁶の結果を利用して、草津市の一人暮らし高齢者の現状を概観する。

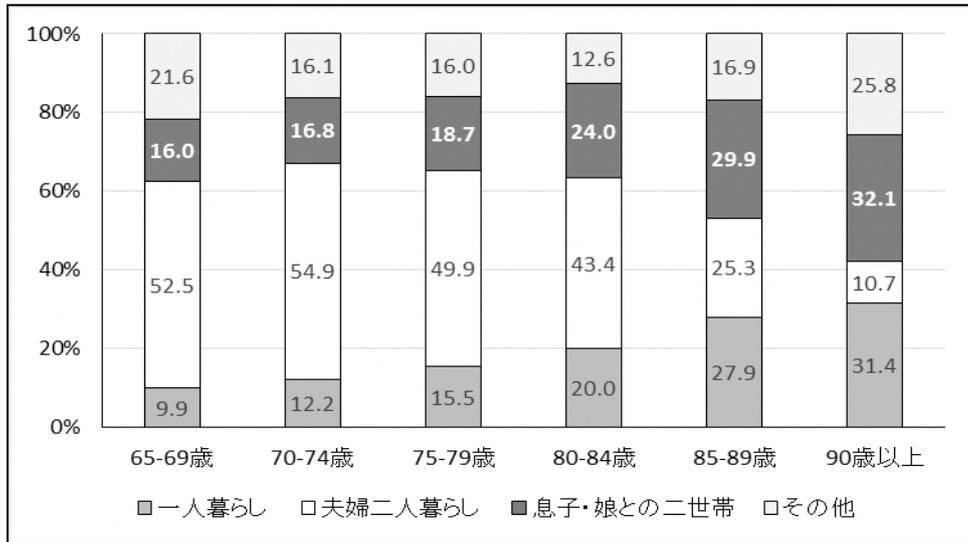
(1) 年齢および性別

家族構成と年齢についてみると、図 2-15 のとおり、年齢が上がるほど、一人暮らしの割合が高くなる。二世帯・その他の割合も高くなるが、夫婦二人暮らしは大幅に減少する。これは、夫婦二人暮らしが 75 歳以上または 80 歳以上になるとどちらか(その多くは男性)が亡くなるが増え、単独世帯へ移行するケースが増えることを示している。

次に家族構成と性別についてみると、図 2-16 のとおり、女性の方が一人暮らしの割合が高い。

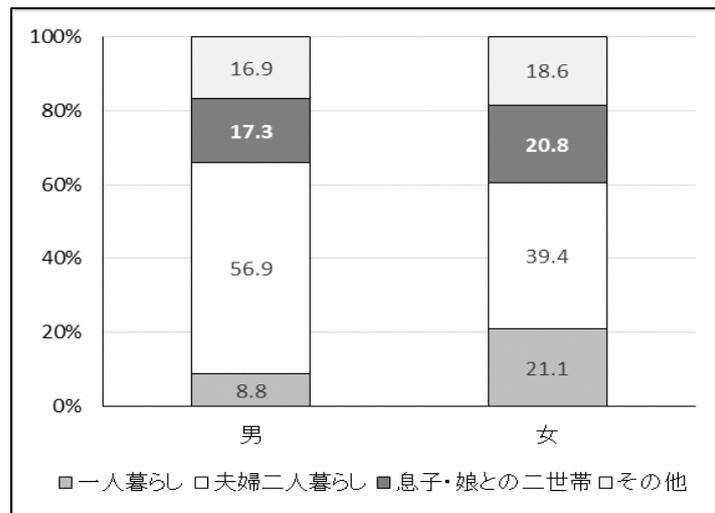
⁵ 農林業センサス(2015)における農家人口が多い順に笠縫村(806人、23.5%)、山田村(750人、21.9%)、常盤村(727人、21.2%)。(カッコ内の割合は、農家人口総数に占める各地域の割合を表す。)

⁶ 調査の概要については参考資料参照。



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

図 2-15 家族構成と年齢 2017（平成 29）年



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

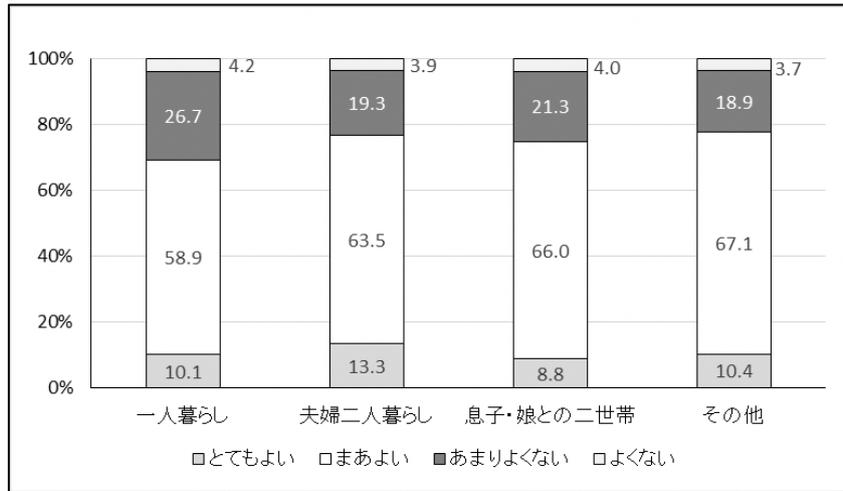
図 2-16 家族構成と性別 2017（平成 29）年

(2) 健康状態および経済的なゆとり

家族構成と健康状態についてみると、図 2-17 のとおり、「あまりよくない」と回答した割合が他の家族構成と比べ、一人暮らしはやや高かった。

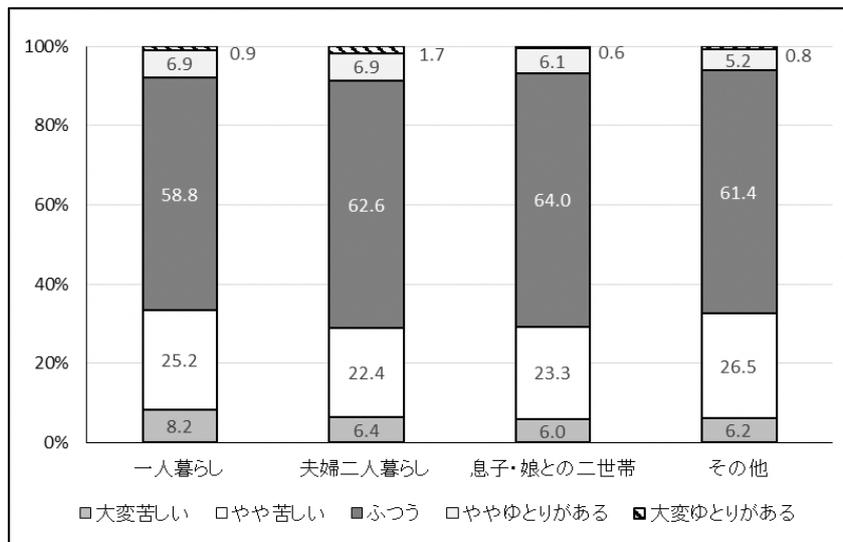
次に、家族構成別に経済的なゆとりについてみたが、特徴的な差はみられなかった。

(図 2-18 参照)



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

図 2-17 家族構成と健康状態 2017（平成 29）年

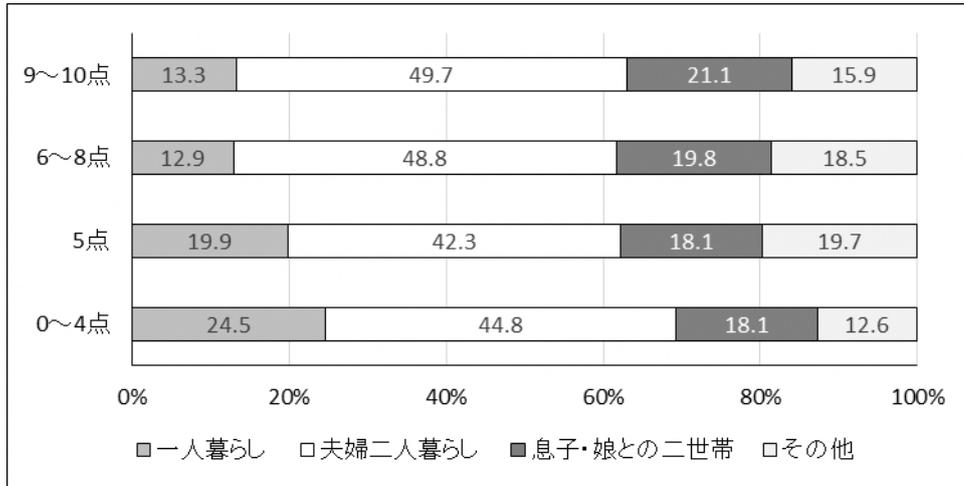


出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

図 2-18 家族構成と経済的ゆとり 2017（平成 29）年

(3) 主観的幸福度

次項で詳細については示すが、得点が高いほど主観的幸福度が高いことを表す主観的幸福度についてみると、図 2-19 のとおり、主観的幸福度の得点が低いグループの中では、一人暮らしの比率が高くなる。



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

図 2-19 家族構成と主観的幸福度 2017（平成 29）年

(4) 外出および移動手段

外出についてみると、表 2-2 のとおり、一人暮らしは外出を控えていると回答した割合がやや高い。その理由として、表 2-3 のとおり、一人暮らしは、「耳の障害」および「移動手段がない」を選択した割合がやや高い。

移動手段については、表 2-4 のとおり、一人暮らしは「自転車」と「自動車（自分で運転）」を選択した割合が低く、タクシーを選択した割合が高かった。

表 2-2 外出を控えているか 2017（平成 29）年

	(%)	はい	いいえ
一人暮らし（以下、一人）		34.1	66.0
夫婦二人暮らし（以下、夫婦）		19.1	80.9
息子・娘との二世帯（以下、二世帯）		29.1	70.9
その他		23.5	76.5

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

表 2-3 外出を控えている理由

(外出を控えていると回答したもののみ、複数回答) 2017 (平成 29) 年

(%)	病気	障害(脳卒中の後遺症など)	足腰などの痛み	トイレの心配(失禁など)	耳の障害(聞こえの問題など)	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他
一人	14.5	4.7	67.9	20.7	15.0	8.8	14.5	11.4	30.6	11.4
夫婦	19.5	7.2	60.5	19.8	10.8	7.8	18.0	9.9	22.2	11.4
二世帯	10.9	3.3	71.1	19.0	11.8	9.0	15.2	5.2	23.2	10.4
その他	13.7	5.9	60.8	24.2	10.5	10.5	12.4	10.5	15.7	21.6

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 (2017)

表 2-4 移動手段 (複数回答) 2017 (平成 29) 年

(%)	徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で運転)	自動車 (人に乗せてもらう)	電車	路線バス	タクシー
一人	57.6	28.3	4.7	27.9	24.0	24.1	25.7	24.5
夫婦	66.8	46.3	5.1	54.6	26.5	30.5	22.2	11.7
二世帯	50.7	37.3	5.3	41.5	38.0	21.4	15.9	12.8
その他	56.8	40.9	5.2	45.3	33.9	26.5	21.1	14.8

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 (2017)

(5) 相談相手

心配事・愚痴をきいてくれる人については、表 2-5 のとおり、一人暮らしは「そのような人はいない」の割合がやや高い。家族・友人・知人以外での相談相手については、表 2-6 のとおり、一人暮らしは「社会福祉協議会・民生委員」と「ケアマネジャー」を選択した割合が他より高い。

表 2-5 心配事・愚痴を聞いてくれる人（複数回答） 2017（平成 29）年

(%)	配偶者	同居の 子ども	別居の 子ども	兄弟姉妹・ 親戚	近隣	友人	その他	そのような人 はいない
一人	1.4	2.2	50.0	38.8	18.8	47.4	4.7	7.1
夫婦	81.5	4.4	45.5	29.6	13.0	40.5	2.0	1.9
二世帯	47.8	54.7	23.5	32.7	14.2	40.1	2.6	3.6
その他	49.5	46.9	32.2	32.2	13.5	37.3	3.9	4.6

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

表 2-6 家族・友人・知人以外で何かあったときに相談する相手（複数回答）

2017（平成 29）年

(%)	自治会・ 町内会・ 老人クラブ	社会福祉 協議会・ 民生委員	ケアマネ ジャー	医師・ 歯科医師・ 看護師	地域包括支援セン ター・役所・役場	その他	そのような人 はいない
一人	12.2	27.4	21.0	29.7	20.0	7.6	23.8
夫婦	14.4	16.6	7.5	31.8	18.4	6.6	29.8
二世帯	14.9	17.6	13.8	34.3	15.9	4.7	28.6
その他	13.9	14.5	10.6	31.6	16.0	9.6	27.6

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

(6) 災害

一人暮らしは災害時の支援者として、表 2-7 のとおり、「民生委員」と「いない」を選択した割合が他より高く、また表 2-8 のとおり災害に対して不安を感じる割合が他より高い。

表 2-7 災害時の支援者（複数回答） 2017（平成 29）年

(%)	同居・近居の親族	近隣の友人・知人	町内会の人	民生委員	その他	いない
一人	24.0	36.2	36.7	20.2	5.7	16.7
夫婦	71.4	28.3	35.2	8.7	1.5	5.9
二世帯	84.6	25.4	30.7	6.9	1.1	2.3
その他	80.5	25.3	33.3	7.0	2.4	3.1

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

表 2-8 災害時の不安（複数回答） 2017（平成 29）年

(%)	安全な場所 ままで避難 できるか かわか らない	災害など の情報を 入手でき るか かわか らない	どこ（だ れ）に助け を求めて いいか かわか らない	避難場 所がど こにあ るか かわか らない	地域の 危険箇 所がわ か ない	緊急避 難セッ トを常 備して いない	災害時伝 言ダイヤ ルや伝言 板のこ と がわ か ら ない	頼れる 家族な どがい ない	健康 面、 身体 面	不安は 特に ない
一人	40.9	22.4	18.6	12.2	15.7	26.4	17.6	22.2	28.1	15.9
夫婦	31.3	20.4	14.8	3.6	14.8	26.2	14.0	4.3	22.1	26.5
二世帯	37.2	15.3	10.0	6.2	11.6	23.5	13.1	1.8	28.2	27.4
その他	33.1	23.4	11.7	4.9	13.0	21.0	15.1	1.6	25.2	26.4

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

(7) まとめ

以上のことから、年齢が上がるほど一人暮らし割合が上昇することが分かったが、一方で、男女合わせて約 8 割が 70 代半ばから自立度が低下することから（秋山 2010）、一人暮らしが困難になる高齢者も増えることがうかがえる。また、主観的幸福度の得点が低いグループの中では、一人暮らしの比率が高くなり、一人暮らしは災害時を不安に感じる割合が他より高い。内閣府（2014）「平成 26 年度一人暮らし高齢者に関する意識調査」においても、日常生活の不安について、自然災害は上位に上がっている⁷。

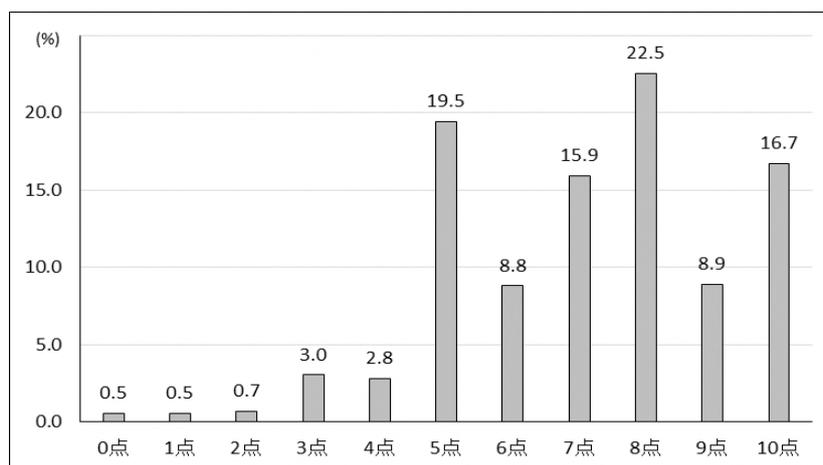
⁷ 日常生活の不安について、「健康や病気のこと（58.9%）」、「寝たきりや身体が不自由になり介護が必要な状態になること（42.6%）」に続き、「自然災害（地震・洪水など）（29.1%）」が挙げられている。（複数回答）

4 主観的幸福度による分類

前項で指摘したように、一人暮らしは、他の家族構成と比べて主観的幸福度が低得点の割合が多かった。そこで主観的幸福度の高い高齢者の特徴の洗い出しを試みるため、前項（3 家族構成による分類）と同様に、「草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（平成 28 年度）」の結果を利用して、草津市の主観的幸福度の高い高齢人口の現状を概観する。

(1) 区分

上記調査の中で、「あなたは、現在どの程度幸せですか」の問いに「とても不幸」を 0 点、「とても幸せ」を 10 点とした回答の分布をみると、図 2-20 のとおりであった。



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

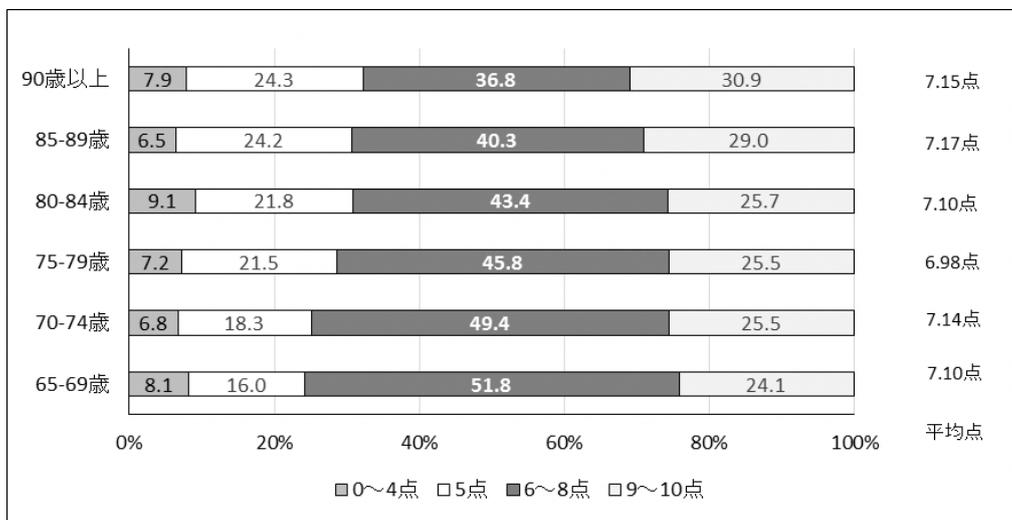
図 2-20 主観的幸福度 (N=3,722 平均 7.11 点)

これを内閣府(2014)「平成 26 年度一人暮らし高齢者に関する意識調査」結果と同様、0～4 点、5 点、6～8 点、9～10 点の 4 グループに分類して分析を行った。

(2) 年齢、性別および経済的ゆとり

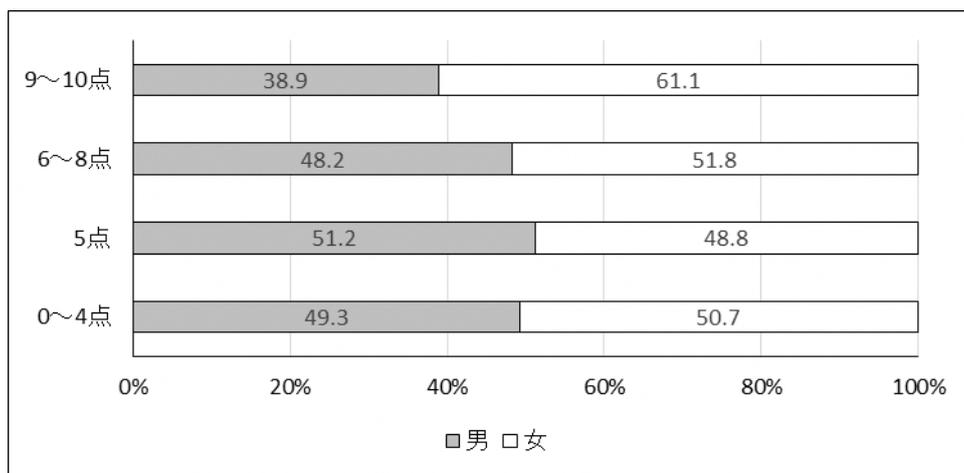
主観的幸福度と年齢の関係についてみると、図 2-21 のとおり、平均点に大きな差はみられない。年齢が上がるにつれてバラつきが大きくなる。(6～8 点の割合が低く、5 点・9～10 点の割合が増える。)

次に性別でみると、女性の方が主観的幸福度の平均点が高く(女性 7.24 点、男性 6.94 点)、9～10 点の割合が高く(図 2-22 参照)、経済的ゆとりがあるほど、主観的幸福度の点数が高い(図 2-23 参照)。



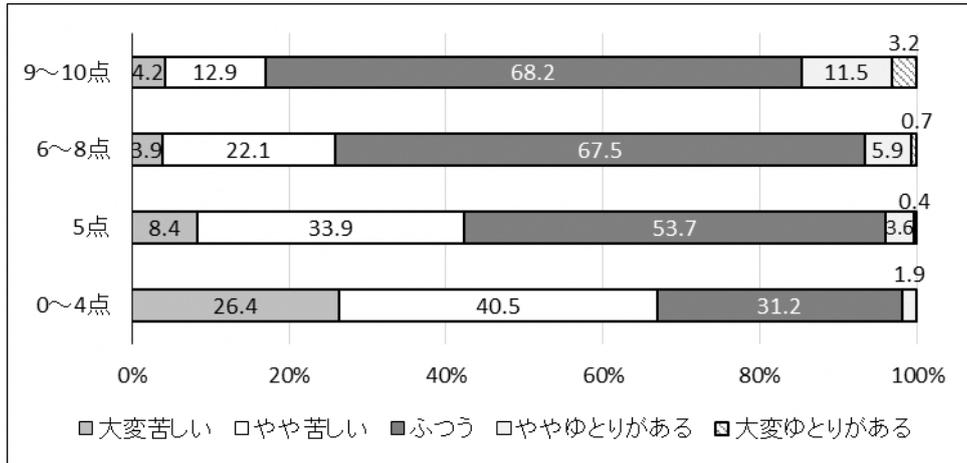
出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

図 2-21 主観的幸福度と年齢 2017（平成 29）年



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

図 2-22 主観的幸福度と性別 2017（平成 29）年



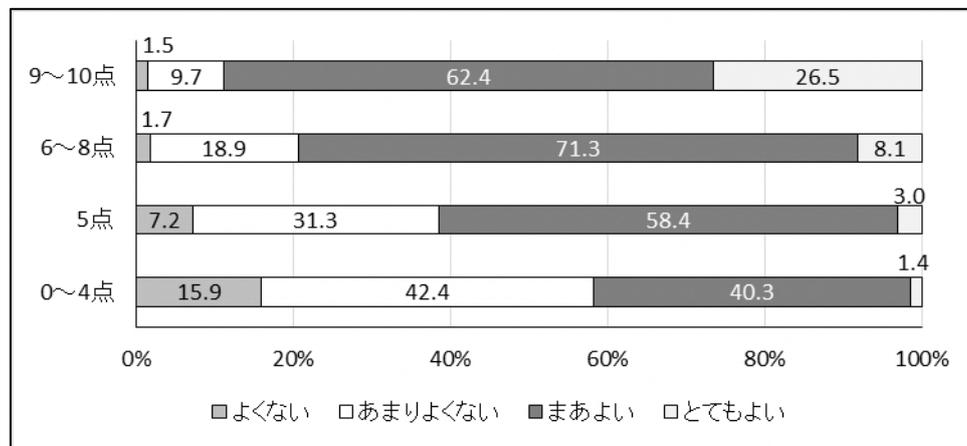
出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

図 2-23 主観的幸福度と経済的ゆとり 2017（平成 29）年

(3) 健康状態および外出

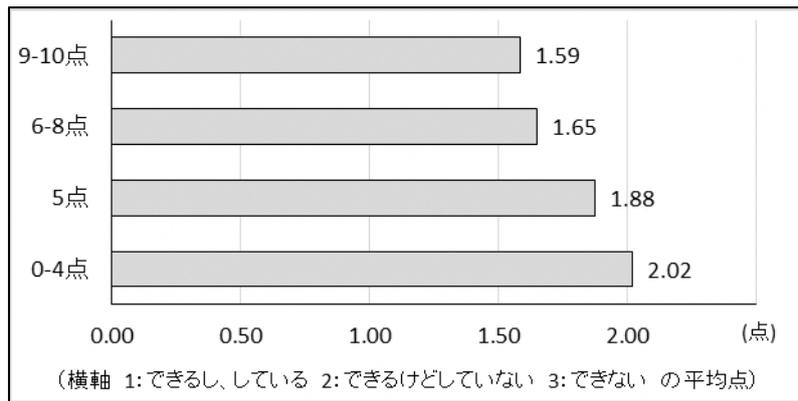
主観的幸福度と健康状態の関係をみると、図 2-24 のとおり、健康状態がよいほど、主観的幸福度の点数が高い。また、からだを動かすことについて、図 2-25 および図 2-26 のとおり、主観的幸福度の点数が高いグループほど、階段を自力で昇る、歩行についての平均点が高い。

また、主観的幸福度の点数が高いグループほど、図 2-27 および図 2-28 のとおり、外出の頻度が多く、前年と比べて外出の機会が減っていない。



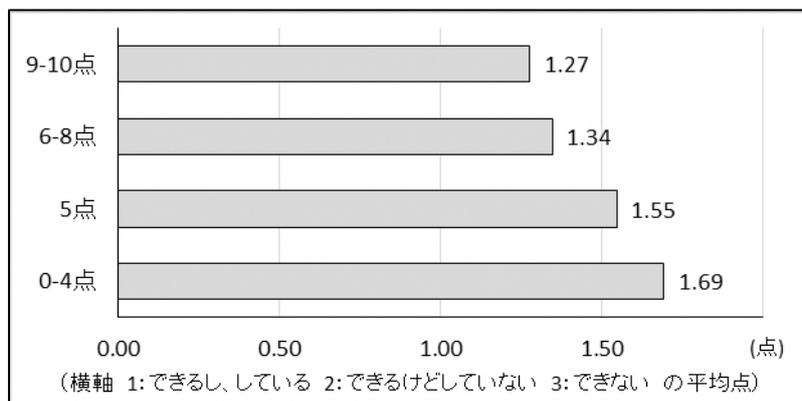
出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

図 2-24 主観的幸福度と健康状態 2017（平成 29）年



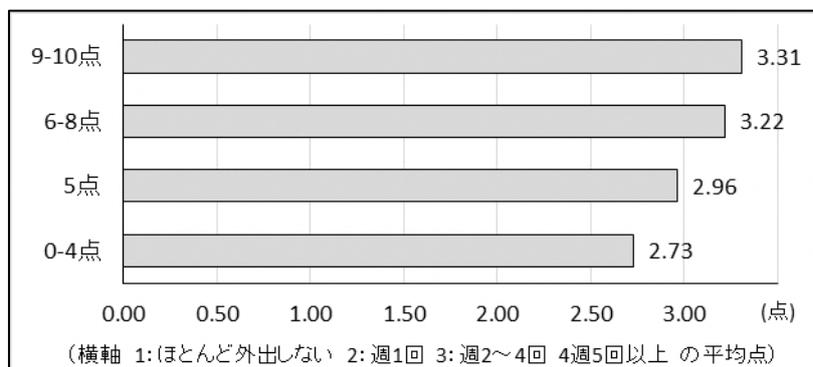
出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

図 2-25 主観的幸福度と自力で階段を昇る動作 2017（平成 29）年



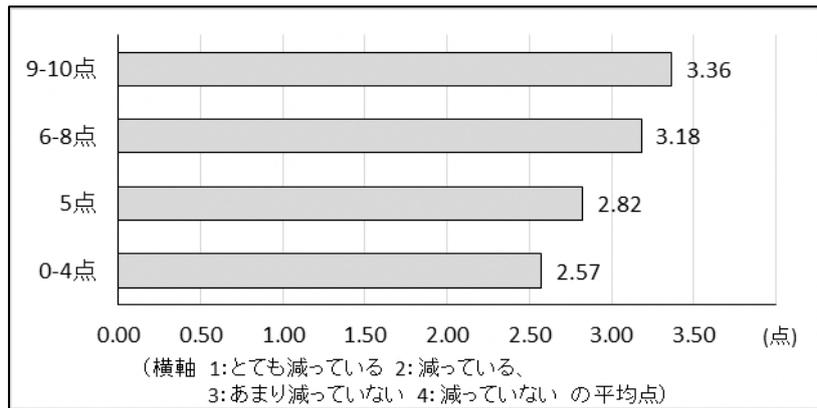
出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

図 2-26 主観的幸福度と 15 分歩行 2017（平成 29）年



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

図 2-27 主観的幸福度と外出頻度 2017（平成 29）年



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

図 2-28 主観的幸福度と前年との外出増減 2017（平成 29）年

(4) 相談相手

心配事・愚痴を聞いてくれる人については、表 2-9 のとおり、主観的幸福度の点数が高いほど「そのような人はいない」の割合が低い。家族・友人・知人以外での相談相手については、表 2-10 のとおり、主観的幸福度の点数が高いほど「そのような人はいない」の割合が低い。

また、主観的幸福度の点数が高いほど、表 2-11 のとおり、よく会う友人・知人が多く、「そのような人はいない」の割合が低いことから、社会性が高いことがうかがえる。

表 2-9 心配事・愚痴を聞いてくれる人（複数回答）

(%)	配偶者	同居の 子ども	別居の 子ども	兄弟姉妹・ 親戚	近隣	友人	その他	そのような人 はいない
9～10点	61.9	24.8	43.2	35.9	18.1	48.2	3.1	1.4
6～8点	61.5	22.6	42.1	33.0	14.2	43.8	2.4	1.9
5点	47.8	18.5	29.0	26.4	11.2	30.7	3.3	7.2
0～4点	40.8	15.8	35.2	28.5	10.6	26.8	4.2	12.0

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

表 2-10 家族・友人・知人以外で何かあったときに相談する相手（複数回答）

(%)	自治会・ 町内会・ 老人クラブ	社会福祉 協議会・ 民生委員	ケアマネ ジャー	医師・ 歯科医師・ 看護師	地域包括支援 センター・ 役所・役場	その他	そのような 人はいない
9～10点	17.3	20.3	8.5	36.5	17.4	7.9	23.6
6～8点	15.5	18.1	10.4	33.5	17.8	6.5	27.2
5点	9.8	16.0	15.5	27.5	18.8	7.0	32.3
0～4点	7.0	12.7	16.9	18.3	16.9	5.6	44.7

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

表 2-11 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（複数回答）

(%)	近所・同 じ地 域 の 人	幼なじみ	学生 時 代 の 友 人	仕事での 同僚・ 元同僚	趣味や関 心 が 同 じ 友 人	ボランティ ア等 の 活 動 で の 友 人	その他	そのよう な 人 は い な い
9～10点	61.9	9.4	15.7	27.7	49.3	17.4	7.7	3.9
6～8点	58.3	7.0	11.3	29.4	44.8	11.6	7.0	4.7
5点	49.0	6.8	8.8	27.1	25.8	5.4	9.0	11.3
0～4点	38.7	3.5	8.8	18.3	19.0	3.5	8.8	23.9

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017）

(5) まとめ

以上のことから、男性より女性、健康と感じ、経済的ゆとりがあり、自身の思い通りに体を動かすことができ、外出の機会があり、相談相手がいる人ほど主観的幸福度が高い傾向にあることが示唆される。

内閣府（2014）「平成 26 年度一人暮らし高齢者に関する意識調査」においても、主観的幸福度は女性、会話の頻度が多いほど、収入が多いほど平均点が高くなっている。他方で、内閣府調査において、年齢別では 80 歳以上で最も平均点が高いが、本市では年齢による平均点の差はあまりみられず、異なる結果であった。